

2015年度(平成27年度) 公益財団法人宮城厚生協会

事業計画

第10回理事会 (2015年3月14日) 決議



理事会風景

厚生協会だより

2015年3月21日
第 330 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：横山公樹

はじめに

公益財団法人宮城厚生協会（以下、本財団とする）は、地域医療と介護の充実のために、医療、介護の質の向上、業務の効率化に取り組み、公益性とこれに伴う社会的責任を自覚し、法人に課せられた社会的役割を果たす。

本財団は、設立趣意書（1950年2月）で謳う「単に疾病の治療または療養だけが対象になるものでなく、疾病のよって起こる社会的な疾患を匡正するまでに発展せしめなければならない。こうしてこそこの事業の新しい真の姿が発揮される。即ち広い意味の厚生事業にまで手を延ばさなければならない。またこういう諸活動と諸施設を一般大衆の福祉の増進という目標のもとに統一されれば医療事業もはじめて完成の域に達す

ることと信ずる」を基本視点としている。

本財団は創立65周年を迎えた。今日においても事業計画の諸事業が地域医療と介護、福祉の充実に寄与し、地域住民の健康と健やかな生活を支え得ることを願う。そのためにも本財団は、日本国憲法が定める平和・人権・民主主義の原則と、国民の生存権と文化的生活の実現のために努力する。

I、事業経営をめぐる環境認識

◇2014年6月に成立した医療介護総合確保法（以下、医療・介護総合法）は、公的医療・介護給付の縮小と不足分を「自助・互助」で補う医療・介護体制づくりをめざしている。特に、医療法改正の内容については、医療機関の機能分化を促進し、これまで各医療機関の理念や主体的力量、自己の選択によって成立してきた地域医療体制のあり方を変えるものとなる。

◇2014年度診療報酬改定と一連のものとして行われた

医療法改正は、「2025年モデル」に向けた社会保障制度改革の一環であり、「医療提供体制の改革」は「機能分化・強化と連携」「在宅医療の推進」を重点課題として、病床機能報告制度や地域医療ビジョン策定等の政策と一体のものになっている。

◇今後、病床機能報告制度で集約されたデータを基に、地域医療構想とそれに基づく医療計画が作成される。計画実行のための協議の場の設置が定められているが、本財団としてもそれらの検討過程を注視し、地域医療・介護を担う立場から必要な意見等を積極的に発信する。

◇2014年度診療報酬改定は、消費税率引き上げ補てん分を除くと実質1・26%のマインス改定となった。診療報酬引き下げと消費税率引き上げは、全国の医療機関に深刻な困難を与えている。日本病院会の「平成26年度診療報酬等に関する定期調査」によると、有効回答688病院のうち赤字病院の割合は58・2%から66・3%に増加、7対1入院基本料算定病院では

赤字病院割合は61・3%から70・6%に増加している(2013年6月と2014年6月の比較)。

◇今回の診療報酬改定の最大の特徴は、効率的な入院機能の評価として、7対1入院基本料の急速な絞り込みを行なったことにある。平均在院日数の算定方法変更や重症度、医療・看護必要度の厳格化、さらに急性期病院を含め全病床機能に在宅復帰率を求めるなど、機能分化による連携が制度化されるルールが敷かれた。中小病院や診療所による「主治医機能」の強化、また在宅医療での緊急往診の在宅看取りの重視など、「入院から在宅へ」の流れを誘導している。

◇2015年10月に予定されていた消費税率10%への再引き上げが国民の強い反対と実体経済の低迷により2017年4月まで先送りされた。これを理由に、2015年度介護報酬改定は実質マイナス4・48%となり、特に特別養護老人ホーム等の施設介護や通所介護サービスが大幅に引き下げられた。

◇地域包括ケアシステム時代の本財団の役割は、各事業所の診療圏で患者・利用者を中心にした行政機関や医療機関、介護事業所等との医療・介護連携(ネットワーク)づくりにある。また、高齢者人口の急増や認知症を持つ方が5人に1人となることが想定されており、まちづくりに取り組む諸団体や高齢者サービス等の各種団体・ボランティアとの協働の中で、本財団の公益事業の真価を発揮しなければならぬ。このような役割を通して地域住民の健康と健やかな生活を支えていく。

Ⅱ、2015年度事業計画

本財団は、公益認定法人として、公益的事業の推進と経営の透明性、健全性を確保し、社会的役割の発揮に全力を尽くす。また、全日本民主医療機関連合会に加盟する本財団事業所の医療活動と地域住民の願いに応える努力を支える。東日本大震災発生から4年、長期化する避難生活により健康悪化や孤独死が続いている。震災復興に向けた支

援活動を強化する。

本財団は、「社会保障と税の一体改革」「2025年のあるべき医療・介護の姿」を踏まえながら、医療・介護等の社会保障をめぐる環境変化に対応した戦略的な「中長期事業計画」を策定する。その実行のために、理事会機能強化をはじめとする組織変革と人事制度改革及び職員教育・研修システムの確立を図り、全職員が参画する事業運営に努める。

1、患者の立場にたつ診療事業、無料低額診療事業を行う

◇地域医療支援病院の坂総合病院は、救急・紹介患者の受け入れ強化を行う。2015年3月竣工の「救急医療・地域連携・教育ステーション」の機能発揮に取り組む。



教育ステーション機能等増築棟
(坂病院)

◇高齢者入居施設「はなみずき」を軌道に乗せ、切実な地域需要に応える。

◇地域での医療・介護の連携を大事にしながらか診療所の活動を重視する。

◇第二種社会福祉事業として無料・低額診療事業を拡大する。

◇「医療相談」「生活相談」「介護相談」に積極的に取り組む。

2、保健予防・集団的健康管理事業を行う

◇「協会けんぽ」健診事業の充実、専門性を生かした特定健診・保健予防活動を重視する。疾病予防事業としての運動療法に取り組む。

◇振動病・頸肩腕障害・職業性腰痛、被曝者健診及び被曝二世健診、アスベストによる健康障害やじん肺に関する健康相談等労働者・住民の健康問題に取り組む。

3、医療従事者の研修教育、医学・看護学等の研究事業を行う

◇東北大学病院及び東北大学大学院医学系研究科と連携し「コンダクター型総合診療医」

の養成に向け、「みちのく総合診療医学センター」を充実し、地域医療を担う医師を育てる。

◇専門研修のため国内外大学・研究機関への研修派遣を行い、地域医療に貢献していく。

◇地域開放型研修会の開催、宮城県病院勤務者向け認知症対応力向上研修会等の実施、薬学生病院実務実習、リハビリ関連や看護関連職種等の実習受け入れを行う。

4、訪問看護・介護、通所、在宅介護支援事業、障害者の医療・福祉事業を行う

◇サービス付高齢者賃貸住宅、小規模多機能施設等の住まいづくりを具体化する。ケアステーションの役割を高め、看取りなどに対応する事業規模を整える。

◇24時間定期巡回・随時対応サービスなどの在宅サービスやリハビリテーションなど自立支援型サービスの強化に向け計画的な人材育成を行う。

5、地域住民との協力による健康増進事業を行う

◇地域住民と協力して「健康

相談会」「離島健診」「仮設住宅等での健康相談会」「路上生活者等の健康を守る健診・食事会」等の健康増進に取り組む。

◇県内に避難している福島第一原発被曝者、被災住民の健診や相談会、双葉町からの避難者や県南地域での甲状腺工コー検診等に取り組む。

6、総合的な社会保障制度確立に関する事業を行う

◇地域住民の健康権を守るため、社会福祉士などによる医療相談・生活援助に取り組む。

◇社会保障制度が活かされるよう、医療・介護現場の気づきを大事にしながら改善援助に取り組む。



仮設住宅健康相談会

健診センターの現状と 待望の健診車更新について



健診センター長 医師 佐藤 佳樹



健診車さわやか号

健診センターは震災で被災し、3年ほど泉病院に間借りをしていましたが、2014年9月に長町病院内に戻りました。健診の診察などは新病院で行い、事務室は北棟(旧長町病院)の地下にあります。

長年頑張ってくれた

健診車

今年、2015年3月2日に待望の健診車が更新されました。前のバスは19年あまり

雨の日も風の日も頑張ってくれましたが、各部に錆が出たり、電気関係の故障が発生したり、レントゲンの画像が不安定だったり、ここ数年は心配な状況が続きました。

健診車は何千万円もするもので、なかなか更新できなかったのですが、今回、公益財団法人JKAの公益事業振興補助事業から補助金を受ける事ができ更新することができました。

ほぼ希望どおりの

機能満たす車両

今回の健診車は、ほぼ希望どおりの機能を満たす車両となり、雪の日でも安心して出張健診に向かえるようになりました。レントゲン撮影装置も最新鋭のものに更新されたことにより被曝量の減少と画像の改善を図ることができました。

また、車高も低くなり高齢者や障害のある方にも乗り降りしやすくなりました。エアコンも以前は効果が弱く調節困難でしたが強力な機器にな

り、エンジン発電機も強力で安定した電源になりました。高速道路を走るのにも強力なターボディーゼルエンジンで駆動し、健診スタッフの乗る座席にも3点式シートベルトが付いて、遠隔地の気仙沼や石巻に出張するのも安心です。

健診車大いに活用し

健診拡充に努めたい

今回更新された健診車を大いに活用し健診の拡充に努めてまいりたいと思います。健診車はつばさ薬局長町店の駐車場にありますので、通ったときにでも見てください。

この健診車の設計や補助事業の手続きなどには多くの職員や業者の方に関わっていただき良い結果を得られることができました。本当にありがとうございました。



広瀬俊雄先生が仙台市医師会より 学術奨励賞授与！

仙台錦町診療所・産業医学センター 事務長 阿部 一彦

2015年1月9日開催の仙台市医師会新年会において、当診療所の広瀬俊雄先生が、第30回仙台市医師会学術奨励賞をいただきました。

仙台市医師会では、1985年度より勤務会員並びに開業会員を対象として学術奨励賞の授与を行なっておりますが、この度、十数名の対象者の中から、選考委員会及び理事会において3名の方が表彰の運びとなりました。

1984年に県連の1次長計の課題として、坂・産業医学科が仙台に移転し、仙台錦町診療所・産業医学健診センターとして開所して30年の年月が経過しました。

また、1月10日の理事会において、新たな移転先として「上杉への移転」を確認いただきました。このような中で栄誉ある賞をいただいたことに感謝しつつ、仙台錦町診療所が地域に根ざした診療所となるように職員一同、努力して参りたいと思っています。

仙台市医師会学術奨励賞を受賞して (医師会報より抜粋)

仙台錦町診療所
産業医学センター長 広瀬 俊雄

「カルテに職業記載が
少ない」発言が
きっかけに

私の受賞は、第一線医療で取り組んできました産業医学（産業保健）活動に対するものと理解しておりますので、よりその定着・発展を願う立場から、良い機会と捉えております。



広瀬俊雄先生

研修医制度としての「東北大学医学部3者協議会」の研修医代表事務局として1年4ヶ月間の大学附属病院での研修を終えて、坂病院に勤務しました。何日か経った最初の医局会議で、第1印象を聞かれて「カルテに職業の記載が極めて少ない」と発言しました。このことがその後、「産業医学」という重大な役割が私に与えられることになりました。

当時、坂病院には、夜と土日にも多くの急患・救急車搬入者が殺到していました。寝る時間を惜しんで診療にあたっていました。先輩たちが「この繰り返しでいい

んだらうか？」と構想論議に着手していました。その中には、それぞれの「科（臓器別）の充実」と「予防の医療」の柱が掲げられました。後者の担当者を考える際に、「カルテに職業の記載が極めて少ない」との発言が決め手となり私が担当になりました。診療科としては呼吸器科も併せての担当になりました。

東北大学医学部第一内科（当時）に入局し、呼吸器全般のほか、大気汚染や塵肺についても学び、坂病院に戻り「産業医学科」と「呼吸器科」双方をまかされました。その後、日本産業衛生学会産業医活動委員会委員（後の産業医部会）幹事と中小企業安全衛生研究会世話人の役目をおおせつかりました。これが、産業医学の専門家や産業医の重鎮と出会う機会になりました。そういう経過のおかげで、県内外での講師活動も増え、われながら診療しながら忙しくやってきたな、と感心しています。改めて、関係者のみなさんに心より御礼申し上げます。



厚生協会として初の老人ホーム 「はなみずき」、 地域に根ざした施設めざす

施設長
坂本 謙一



2014年12月に開所しました「住宅型有料老人ホーム はなみずき」です。長町病院北棟の3階・4階の部分を改装し、48室（夫婦部屋2室）50床で運営しております。

独り暮らしの高齢者や老夫婦のみの世帯の方、独力で外出ができないなど食事の提供や見守り支援を必要とされる方が入居できます。

超高齢者社会が進む中で、医療サービスや介護サービスの提供を受けながら、誰もが安心して生活できる住居が求められています。

いつまでも住み慣れた地域でなじみの人たちと暮らしたい・そんな思いを大切に、地域に根ざした施設をめざしながらつづけています。

厚生協会としては初の老人

施設概要

- 名称：有料老人ホーム はなみずき
(事業主体：公益財団法人宮城厚生協会)
- 介護サービス：住宅型有料老人ホームなので、介護サービスはご自宅と同様に、ケアプランによる介護サービスの提供になります。別途契約で受けていただくことになります。
- 鉄骨造 地上5階、地下1階建（長町病院 北棟3階、4階部分）
- 居室数：48室（夫婦部屋2室）コールボタンにて24時間見守りサービスがあります。
- 居室概要：全室個室、トイレ・洗面・浴室などは共用
- 共用施設：食堂、浴室（個浴、特殊浴槽）、共用トイレ、
- 入居対象：65歳以上で介護認定を受けている方、その他
- 併設施設：1階に、居宅介護支援事業所、軽食喫茶（障害者就労支援事業）、友の会、保育所2階に、訪問リハビリ、訪問看護・介護、5階に、通所リハビリテーション、通所介護、メディカルフィットネス、通所型介護予防事業（元気応援教室：運動・口腔機能向上）お向かいの長町病院からの往診も可能です。

こんな方が、入居できます！

- ◆独り暮らしの高齢者や老夫婦のみの世帯の方。独力で外出ができない、調理など家事を行うことができないなど、食事の提供や見守り支援を必要とされる方。
- ◆トイレや洗面所などが共用です。
居室部分は個室で、その他は共用となります。集団生活になじめる方が対象となります。
- ◆在宅酸素療法、インスリン注射（自己管理が困難）、褥創などの創傷処置が必要な方、
高価な薬剤管理が必要で施設入所困難な方、胃ろう管理などの方もお相談下さい。

ホームであり、業務マニユアル・運営基準などを一から作っていく大変さを感じながらも、有料老人ホームとして社

会的な使命と役割を果たすことができるようスタッフ一同、努力をしております。



写真は、今月の行事ホットケーキパーティーです。
次回は、焼きそば・たこ焼きをしてほしいとリクエストも（笑）



左端が大関さん

さわやか **エッセイ**

私とアイスホッケー

泉病院外来 **大関麻里妹**

どこでいつやっているの

「アイスホッケーはどこでいつやっているの」とよく聞かれます。皆様が平日仕事を終えて帰宅し就寝する位の時間帯から、仙台アイスリンクを1時間半貸切り、深夜近くまでやって翌日フツーにみんな仕事してます。かなりハードです。翌日は船をこぎながら仕事をします(笑)。あまりいい時間帯でないのはホッケー自体がメジャーでないので、施設も少なく高校生以上のチームは夜遅いのが普通のようなので、それでも私たちはアイスホッケーができる幸せを噛み締めているホッケーバカのDM集団です。



大会会場のサンワアリーナ

「なんちゃってナース」として君臨

入部当時は、深夜勤前にホッケー練習で一汗かいて仕事して、よく同僚にもチームメンバーにも「パワフルだね」と驚かれました。そんな私の腕前はハッキリ言って下手で上等です。私とアイスホッケーの始まりは1999年勝山アイスリンクがあった当時、女子だけのアイスホッケーチームがあると聞きすぐ見学に行きました。チーム名は「勝山ダッキーズ」といい、即決でその日に入部を決めました。メンバーはみんな気さくで明るく個性的な人達ばかり。まだ仙台に来たばかりだった私に、仙台は面白い人や楽しい場所だなと印象づけてくれました。その時真っ先に声をかけてくれた中心メンバーが今や国際アイスホッケー審判Aランクの資格を有し、日本全国、時には海外にも笛を吹きに行くほどの達人で、彼女はホッケーも上手ですがその人柄が目標になる存在になってます。

現在のチームは13歳～40代後半まで親子ほどの幅広い年齢層で頑張っています。しかも、ダッキーズのキャプテンは今宮城大の看護科学生。さらにチームでの二人のアシストキャプテンJK(女子高生)や来年JD(女子大生)と次々とダッキーズはナースの卵を産む予定です。私はチームでは「なんちゃってナース」として君臨し、浣腸とおっぱいマッサージならいつでもまかせろとメンバーを脅しながら、それこそなんちゃってなので実は大きな怪我や病気の事を聞かれて頼りにされたらとビクビクしてます。

なんと3位入賞!

昨年暮れに日本アイスホッケー連盟主催の女子の東北大会がありました。今年はなんと片道5時間青森の三沢で行われました。朝6時発で大型バスを貸し切ってるで学生時の合宿のようです。青森は猛吹雪でした。そんな中で行われた大会で我々ダッキーズはなんと3位入賞しました。3位になれたのは奇跡に近いほどの3年間勝利がなかったので、本当に嬉しかった。何よりも「この仲間」「このチーム」で勝てたことが最高でした。



やったあ! 3位入賞!

40過ぎのおばちゃん同士ふざけあって、馬鹿言って笑い合って若者から刺激を受け、年甲斐もなく競争して時には真剣にホッケーについて語り、アイスホッケーを人生にたとえてみたりして人生とは何ぞやと若者へ語ったりもします。

初心者大歓迎! 興味のある方、ぜひ見学に

アイスホッケーをしていると本当に学生時代に戻り、あの熱かった自分になれて心が清々しい気持ちになります。全身防具をつけて思いっきり暴れるんです。そりゃあ、普段のストレス発散できること間違いなし。皆さん、アイスホッケーは楽しいですよ。初心者大歓迎! 興味のある方、ぜひ見学にいらしてください。新しい仲間を募集していまーす。



氷上の美女軍団